

令和4年度

引野中だより

校訓
自主自律
文武両道

第12号
学力特集号

校長 峯 隆幸

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

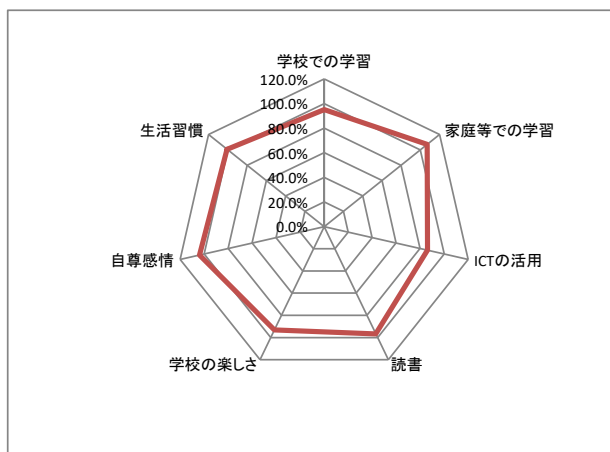
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語	○どの事項もまんべんなく、全国平均を上回っている。10問以上正解している生徒が7割を超えている。特に思考力・判断力・表現力等に関する問題の方が正答率が高い。また問題形式に関しては「選択式」より「記述式」の問題の方がより多く平均を上回っている。	上回っている
数学	○平均正答率は全国平均をやや上回っている。数と式、図形の問題で全国平均を下回っており、評価の観点では知識・技能に関する事項が全国平均をわずかに下回っている。問題形式は「記述式」の方が正答率が高くなっている。	上回っている
理科	○平均正答率は全国平均を上回っているが、正答率が下回っている領域もある。また問題形式については国語・数学と異なり、「短答式」問題の正答率が高い。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

○読書については、学校で1日10分間の朝読書に取り組んでいるので読書が好きな生徒の割合が全国平均を上回っている。しかしながら、1日の読書時間が少ない傾向がみられるため、朝の読書をきっかけに、読書に親しむ習慣を身につけるよう、学校図書館の活用推進等に取り組む。

○自尊感情に関する質問への肯定的回答が全国平均を上回っているため、今後も充実感や達成感を体験できるよう、道徳の時間・特別活動、学校行事の充実を目指す。

○ICTの活用について生徒が有用性を感じているのに対し、実際授業の場での活用が少ない傾向にあるため、学校全体でICT活用に積極的に取り組む。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○知識・理解を深めることができているが、それらを活用して事物事象について表現したり、説明したりする力を伸ばす必要がある。そのため各教科においてキーワードを用いて目の前の事象について説明させるような学習活動に取り組ませる。

○授業におけるICTの積極的な活用。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○週末に家庭でも30分以上の読書活動を行えるような取組（週末貸し出し、家庭学習の課題にするなど）を行い、保護者にも呼びかける。

○スマホ等の使用時間、SNS等の活用について、家庭でのルールを明確にするよう各家庭に呼びかける。

○早寝、早起き、朝ご飯などの基本的な生活習慣について、その重要性を改めて生徒、保護者に啓発する。